

## 堤防閉め切り以降、有明海漁民の自殺・同未遂事件等リスト

有明海漁民・市民ネットワーク  
05年3月17日現在

事件発生年月日	県・所属漁協	年齢	事件の背景など
1999年1月か2月頃	福岡県(大和町) 有明漁協	50歳前後	海苔漁業者。家族構成不明。首吊りによる自殺。借金苦ではないかと言われている。
1999年前後の1月頃	福岡県(大和町) 有明漁協	50代～ 60代	海苔漁業者。家族構成等背景は不明。土手にて焼身自殺。
1999年3月	福岡県(大和町) 大和漁協	62歳	海苔漁業者。家族は、妻と2人の息子。息子達は後を継いでいる。首吊りによる自殺。沖漁場が多いため、環境にも恵まれていたが、技術的にも優れており、高品質の海苔を作ることで、組合の中で5本の指に入ると言われていたほどだった。大変研究熱心で、技術を買われて海苔養殖の講師もしていた。設備投資の直後、漁業不振に陥る。今まで恵まれていたはずの沖漁場で、諫早湾潮受け堤防閉め切り後、早い時期から海苔の色落ちが始まる。閉め切りの翌年から故人はよく「あそこ(諫早湾)の中はもうヘドロみたいになっている」と言っていたという。
2002年12月頃	福岡県・大牟田 周辺漁協	60代	潜水漁業者。夫婦2人暮らし。諫早干拓工事以降の漁業不振により生活苦となり、島原沖で潜水道具の錘を抱いて入水自殺。未遂に終わり、その後は生活保護での暮らしとなる。
2003年8月	福岡県(高田町) 高田漁協	53歳	海苔漁業者。家族は、妻と4人の息子。その内2人が後を継いでいる。首吊りによる自殺。原因は定かではないが、借金だらうと言われている。お金のことを心配していたらしい。
2003年10月下旬～ 11月のはじめ頃	福岡県(大和町) 大和漁協	60代	海苔漁業者。家族は、妻と娘。海苔作業小屋で自分の腹を刺す。未遂。自殺の原因は定かではなく、もともと鬱病だったとの噂もあるが、海苔との関係も疑わざるを得ない。03年は秋芽が採れず、冷凍入庫の時期(10月下旬～11月初)も、沖漁場では海苔が色落ちしかかっていた。
2004年1月31日	佐賀県(太良町) 大浦漁協	65歳	潜水漁業者の妻。夫婦2人暮らし。首吊りによる自殺。近所に住む息子夫婦と共に漁を行っていた。潮受け堤防閉め切り後、タイラギ休漁を余儀なくされ、他の網漁も著しく水揚げが減少していた。そのため、生活は大変厳しい状況にあったという。
2004年2月21日	福岡県(大和町) 有明漁協	45歳	海苔漁業者。家族は、母、妻、息子。承諾殺人。借金苦のため、母親との心中を試みるが、自身は未遂に終わる。潮受堤防閉め切り以降からの不作為に追撃をかけた00年度の大凶作で、水揚げは以前の5分の1に落ち込む。設備投資した直後だった。そのうえ貸主から海苔小間代の一括払いを求められていたという。が、金融機関からも融資を断られていた。周囲によると、自身は真面目な性格で、海苔漁が休みの夏場も工場などで働いていたという。04年7月、福岡地裁・久留米支部は、懲役3年保護観察付き執行猶予5年(求刑懲役5年)を言い渡す。
2004年4月24日	佐賀県(太良町) 大浦漁協	47歳	主にエビ網漁を行っていた。家族は妻と中学生を筆頭に2人の子供。作業小屋にて網を掛けて首を吊る。全く水揚げが上がらない状況であったという。一年を通じて著しい不漁が10年以上も続いていた。養育費、家のローン、漁業のための設備投資などのために借金をしたが、返済できず、気に病んでいたという。そのせいか、ここ数年、鬱状態でもあった。
2004年5月上旬頃	福岡県(高田町) 高田漁協	45歳	海苔漁業者の妻。家族は、夫と息子。首吊りによる自殺。原因は定かではなく、鬱病だったとの噂もあるが、海苔漁期終了後のオフシーズンでの事件に、「海苔が普通に採れてさえいれば死ぬ事はなかっただろう」と漁師の間では話されていた。
2004年12月	福岡県(大和町) 中島漁協	50代前半	海苔漁業者。妹と2人暮らし。川端の共同使用の海苔荷上用けクレーンで首を吊る。原因は定かではないが、ちょうど冷凍網を張り込んだ直後で、当時、栄養塩が減り始め、海苔の色落ちが心配されていた。
2005年1月21日	長崎県(有明町) 有明町漁協	45歳	漁船漁師の妻。家族は、夫と2人の娘。睡眠薬を大量に飲み、自殺。家庭内の問題という声もある一方、「漁さえできていれば…」という声も周囲から聞こえた。
2005年1月24日	佐賀県(太良町) 大浦漁協	47歳前後	潜水漁業者。家族は両親と妻と4人の子供。自殺ではないが、出稼ぎ潜水士の過労死ともいえる死亡事故である。操業終了後、潜水・高気圧症で、出稼ぎ先近くの病院で治療を受ける。一時回復するも、暫くして意識不明となり、死亡。出稼ぎ先での労働条件は、労働時間や待遇など、地元での家族との操業に比べると、かなり過酷なものだったという。高校生の長男は後を継ぐ意思はあったが、父の死によって諦めざるを得なくなったという。

この表は、有明海漁民・市民ネットワーク(有明海漁民600名を含む会員700名の任意団体、代表は福岡県海苔漁業者・松藤文豪)事務局において、漁民会員等の聞き取り及び報道から、まとめたものである。